

第202問 サンプル-20

Xは、金銭を貸し付けたYとその連帯保証人Zを共同被告として、それぞれ貸金の返還と保証債務の履行を求める一つの訴えを提起した。この事例に関する次のアからオまでの記述のうち、正しいものを組み合わせたものは、後記1から5までのうちどれか。

ア Yのみが申し出た証拠の取調べの結果は、Zが援用しなくとも、裁判所は、XのZに対する請求について、事実認定の資料とすることができるが、証拠調べ後にこの請求についての弁論を分離したときは、事実認定の資料とすることはできない。

イ YがXから金銭を借り受けたことについて、Zがこれを自白しても、Yが当該事実を争えば、その自白は、XのZに対する請求においても、効力を生じない。

ウ Xの訴えに係る訴訟の目的の価額については、Yに対する請求の価額と、Zに対する請求の価額とを合算する必要はない。

エ XがYのみとの間で、Yの債務を一部免除する旨の訴訟上の和解をしたときは、Zは、免除された部分について、自己の保証債務の消滅を主張することができる。

オ XのYに対する請求とZに対する請求について、一つの判決がされた場合において、Yがこの判決に対して控訴をしたときは、この判決のうちZに対する請求部分も確定しない。

1. ア イ
2. ア オ
3. イ ウ
4. ウ エ
5. エ オ